

2016 年 10 月 28 日

生活保護基準部会の今後の議論についての要望

委員 岩田正美

前回部会での発言と関わって、以下のような作業を行った上で、「科学的、専門的検討が求められる部会」として今回の検証作業に入るよう要望します。

1 これまでの部会が関わった基準検証の後でなされた基準改定の影響把握

1) 保護の開始の動向とそれに与えた影響

①保護開始に与えた影響

保護申請、または相談時の収入について情報が無いので、基準改定が申請や決定に与えた影響がわかりにくいところがあります。まず相談や申請時の収入が保護基準にたいして、どの程度のレベル（貧困の深さ）になっているのかを把握し、基準改定の影響を検討する必要があります。ちなみに、2014 年社会保障生計費調査（2 人以上世帯）では、収入に占める生活保護給付費割合は平均 56.9%なので、基準ぎりぎりでの申請は多くないとの想像はできますが、ある程度の把握をしておくことが肝要。

②廃止に与えた影響

基準改定が廃止に与える影響は、開始に比べやや多くなる可能性があります。これは把握しやすいと思いますので、保護再開も含めて、正確に把握する必要あり。

2) 保護世帯の消費水準および構造へ与えた影響

社会保障生計費調査の個票を使って、いくつかの世帯類型、世帯人員、地域による 2012 年度以前と、特に 2014 年度以降の比較。

消費水準の比較および消費構造の比較。

- 3) 冬季加算の影響
- 4) 住宅扶助の影響
- 5) 他の制度への影響
地域による影響の差異

2 資料

1) 既存データ

① 社会保障生計費調査

調査の実際のやり方で、生計簿が歪められていないか、個票レベルでの検討必要（利用出来ないものは排除）
消費性向が下がっているのは何故か（収入内に収めるような記帳時の指導がないかどうか？）

② 被保護者調査（保護の動態把握は正確か）

2) 上記で分からないものについて補充調査

3 参考資料

- 1) 山田篤裕・四方理人「高齢者の貧困の構造変化と老齢加算廃止による消費への影響」社会保障研究第1巻第2号 2016年
- 2) 社会保障生計費調査結果（2012,13,14年）にみる世帯類型別家計の変化
公表されている作表の範囲。今後、個票レベルでの細かい検証が必要
水準均衡の比較対象であった全消第1十分位の消費水準、構造ともかなり隔たった結果となっていることに注意。

実収入額の推移(円)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他2人以上	高齢者単身
2012	192,040	143,271	235,567	206,831	166,501	189,833	113,757
2013	199,107	146,963	243,932	193,271	184,363	190,851	116,235
2014	191,640	146,025	231,828	197,177	178,565	181,054	113,641
対前年度比(2014)	0.96	0.99	0.95	1.02	0.97	0.95	0.98
2014全消第10分位	235,843						

うち生活保護給付額の推移(円)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他	高齢者単身
2012	114,913	101,612	128,165	114,772	117,092	108,641	84,212
2013	114,615	104,576	130,782	106,559	123,463	102,258	86,036
2014	109,023	100,569	126,246	103,872	111,218	96,522	80,819

消費水準の推移(円)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他	高齢者単身
2012	168,218	130,152	197,101	192,754	152,132	166,583	103,197
2013	174,163	131,768	211,668	155,365	168,121	168,221	103,413
2014	164,535	131,323	191,991	164,080	157,079	158,918	101,530
2014全消第10分位	198,490						152,070 *

*65～男性

食費水準の推移(円)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他	高齢者単身
2012	51,399	46,173	53,437	58,941	49,136	52,309	30,340
2013	51,579	47,867	53,547	49,130	52,834	52,091	29,970
2014	51,696	49,181	50,533	56,748	50,752	53,749	31,551
2014全消第10分位	52,139						40,049 *

*65～男性

エンゲル係数の推移(%)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他	高齢者単身
2012	30.6	35.5	27.1	30.6	32.3	31.4	29.4
2013	29.6	36.3	25.3	31.6	31.4	31.0	29.0
2014	31.4	37.5	26.3	34.6	32.3	33.8	31.1
2014全消第10分位	26.3						26.3 *

*65～男性

消費性向(%)

年度	2人以上総数	高齢2人以上	母子	障害	傷病	その他	高齢者単身
2012	87.6%	90.8%	83.7%	93.2%	91.4%	87.8%	90.7%
2013	87.5%	89.7%	86.8%	80.4%	91.2%	88.1%	89.0%
2014	85.9%	89.9%	82.8%	83.2%	88.0%	87.8%	89.3%
2014全消第10分位	84.2%						89.3%

*65～男性